

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 5年 9月 21日

事業所名 ゆいはうす

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6			静かに気持ちが落ち着ける場所、切り替えしやすい個室など環境を整えていく。
	2	職員の配置数は適切である	6			配置基準以上の職員で対応している。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	5	1		靴箱やロッカーなどには視覚的に文字やイラストで表示しているが、各部屋についてもわかりやすく視覚化する。部屋やトイレはバリアフリーになっているので、入口にもスロープをつける。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	6			活動後や活動前に清掃を行い、心地よく過ごせる環境を整えている。児童の活動に合わせた訓練室、学習室を確保している。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	4	2		業務内容をPDCAシートに落とし込んだり、事前に集団活動の計画を立て、準備を計画的に行う。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6			保護者等に対して事業所の評価を実施し、より良い支援に繋げている。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6			事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、課題や改善策を職員間で話し合い、ホームページ等で公開している。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	4		今後、必要に応じて実施を検討する。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6			勉強会や研修で学んだことを職員間で共有し、実践できるように努める。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	6			保護者や児童の願いを聞きながら、えいぶるやサービス利用計画に沿った計画を立てている。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	1		えいぶるやサービス利用計画に沿った計画を立てて、支援・評価している。えいぶるは事業所に合わせた形式にしている。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	4	2		アセスメントシートを基に、全職員で会議を重ねた上で個別支援計画の作成を行っている。今後は地域支援についても検討していく。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	6			個別支援計画に沿って、日々の活動や支援を行っている。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	6			集団活動や個別活動について、職員間で話し合っ決めていく。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6			行った活動をデータで残し、過去の内容も参考にしながら新しい活動を考えていく。
16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	6			児童の状況や1人1人のペースに合わせて、個別支援計画の作成、見直しを行っている。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6			児童の利用前に毎日話し合いを行い、当日の支援内容や役割について確認している。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5	1		児童の利用後や利用前に話し合いを行い、前日の振り返りを行うことで次の支援に繋げている。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6			日々の活動や支援について、児童ごとの支援目標に沿って記録している。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	6			定期的にモニタリング会議を行い、その内容を職員間でも共有し、個別支援計画の見直しを行っている。
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6			事前に職員間で児童の様子や状況を話し合い、話し合った内容を基に担当者会議、モニタリング会議を行っている。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	4	2		相談支援事業所やこども園等と連携を取って支援を行っている。必要に応じて、その都度担当者会議もやっている。今後は支援センターも訪問していく。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				現在、医療的ケア児の利用無し
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				現在、医療的ケア児の利用無し
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6			就学や他事業所の利用に向けて、児童の状況や様子について、情報を共有している。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6			就学や他事業所の利用に向けて、児童の状況や様子について、情報を共有している。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6			発達支援についての研修や勉強会に積極的に参加している。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		6		以前は児童館などで地域の子どもたちと交流があったが、現在はコロナ禍で交流が難しい状況。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		6		今後は地域の文化祭や子ども会との関わりを検討し、自治会と連携していく。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6			送迎時や連絡帳を通して児童の様子を丁寧に伝えあい、状況に応じて電話やLINEでも柔軟に対応している。
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	3	3		保護者からの要望があった際、柔軟に対応していく。	
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6			利用契約時に、保護者の方へ丁寧な説明を行っている。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	6			利用契約時に、保護者の方に個別支援計画について説明し、同意を得ている。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6			モニタリング会議や送迎時などに保護者の方からの悩みについて聞き、気持ちに寄り添えるよう心がけている。状況に応じて電話相談やLINEでも柔軟に対応している。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		6		今後、保護者からの意見を参考にしながら、開催を検討する。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	6			子どもや保護者からの相談や申入れについて、利用状況に合わせて、その都度、迅速かつ柔軟に対応している。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6			毎月、活動内容やお知らせを記載したおたよりを配布している。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	6			保管場所を決め外部に持ち出さないよう十分に注意し、取り扱っていく。
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6			児童や保護者の方の気持ちに寄り添いながら、工夫や配慮を行っている。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		6		現在はコロナ禍で地域の方との関わりが少ないので、状況を見ながら交流を考えていく。長期休みなどを利用して、イベントを検討する。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	6			緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルについては職員間で共有できているので、ホームページに掲載して保護者の方にも周知してもらう。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	1	5		避難訓練の年間スケジュールを作成し、役割を決める。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	5	1		持病について保護者の方に確認し、職員間で情報を共有している。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6			現在、食物アレルギーを持つ児童の利用はないが、以前持っていたアレルギーについても保護者の方に確認し、職員間で情報を共有している。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4	2		ヒヤリハット事例集を作成、保管し、職員間で共有している。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6			虐待防止についての研修や勉強会に参加している。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	4	2		現在、身体拘束が必要なパニック等のある児童は在籍していないが、契約時に保護者の方への説明を行っている。今後、個別支援計画にも掲載していく。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。